

総合患者支援センターニュース

〒700-8558

岡山市鹿田町2丁目5番1号

岡山大学病院

総合患者支援センター

☎ 086-223-7151 (代表)

☎ 086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



センターの日常的活動に関しては

ホームページ

<http://www.cc.okayama-u.ac.jp>

新たな飛躍と連携をめざして

総合患者支援センター長 公文 裕巳

皆様、新年明けましておめでとうございます。

平素より、当センターの活動にご理解を賜り感謝申し上げます。「私たちは、患者様に最良の医療とケアを提供するために活動します」という合言葉のもとに、患者様の目線で考え、出来ることをひとつひとつ増やしていくことを折々の目標として活動してきました。本年4月の新病棟全面オープンとともに満5歳となりますが、本センターの構想そのものがおよそ10年前の新病棟計画とともにスタートしたことを考えますと感慨深いものがあります。「良いことは継続して実施しないと意味がない。」「継続できていることは意味のあることである。」という信念のような使命感が、当初より協力をいただいています多くの一般ならびに職能ボランティアの方々のエネルギーであり、センター運営の原動力になってきたと思います。

本センターの基本姿勢と各種の支援事業の方向性は時代の要請とも一致し、各種相談業務、ボランティアで運営している患者図書室、IT活用による遠隔医療、各種専門チームによる医療支援、ならびにボランティアオストメイトが運営するサロンなど、今では大学病院になくてもならない機能的役割を担っています。一方、本来は患者支援の中心のひとつになるべき地域医療連携活動については、センター設立の時点では大学病院としての体制が未整備であったため、本センターの主たる業務としては取り扱わないで、退院支援を含む患者支援活動の一環として実施してきました。幸い、地域連携室も平成17年には正式に設置され、本センターとの密接な連携のもとに、大学病院としての病一病連携、病一診連携の体制についても初診患者様の紹介予約を含めて整備されてきました。また、平成18年からは「がん対策基本法」に基づくがん診療連携拠点病院としての機能が大学病院に付与され、がんに対する包括的

医療、心のケアを含めた支援体制の拡充が求められています。このような状況の変化に対応すべく、平成20年の新病棟の全面オープンにともなうセンターの移転を機会に、地域医療連携部門と患者支援部門を統合し、患者様の目線にあった病院の機能分化と地域連携の強化による広義の地域連携クリニカルパス（前方支援と後方支援）の構築と運用をめざして新たな飛躍と連携をめざしていく予定であります。飛躍と連携のためには、患者様と医療者をつなぐ医療ボランティアの輪の拡大とともに、センタースタッフの更なる充実が望まれるところであります。皆様方のご支援をお願い申し上げます。



総合患者支援センタースタッフ

日本遠隔医療学会学術大会を主催しました

昨年10月19日と20日の2日間、総合患者支援センターの主催で（大会長；公文裕巳センター長）、日本遠隔医療学会学術大会を岡山コンベンションセンターにて開催しました。

今回の大会テーマは、「少子高齢化時代にいのちと健康を護る遠隔医療」としました。これは、医療IT技術を使って、小児科専門医と非専門医とが一体となって子どものいのちを護ってゆくシステムや、増加する高齢者の家庭や福祉施設での見守りをシームレスに行ってゆくシステムの必要性から採り上げたものです。テーマに沿ったシンポジウムを始めとして、分科会報告、一般演題の他、日本における遠隔医療の歴史の紹介、および中国と韓国の遠隔医療の紹介もそれぞれゲスト演者によって行われ、日本遠隔医療学会の国際化の第一歩となりました。



（左から）太田隆正先生、
大井伸子先生、
大月審一先生

2日目の午後に行われた市民公開講座は、一遠隔医療「おかやまからのメッセージ」として、石井正弘岡山県知事に開講のご挨拶を頂いた後に、岡山県出身のマラソンメダリスト有森裕子さんが「よろこびを力に」と題して講演され、引き続いて岡山で行われている遠隔医療を映像を交えて紹介しました。これらのテーマと演者は次の通りです。

- ①妊婦を護る医療ITネットワーク：皇室でも使われたというモバイル在宅妊婦管理システムを使った取り組み；三宅医院三宅馨先生
- ②重症心疾患の赤ちゃんを救え！！：心臓超音波画像伝送による小児専門医の診療支援の実際（津山中央病院と岡山大学病院との中継映像）；当院小児科大月審一先生
- ③小さいいのちのための遠隔育児支援：携帯電話を用いた低出生体重児の育児支援の取り組み（直島との通信映像）；保健学科大井伸子先生
- ④高齢者と家族を護る映像ネットワーク：新見市で行われている高齢者宅と医療機関とを映像で結ぶシステム；太田病院太田隆正先生

遠隔医療は、上に紹介したような映像を用いたもの以外にも、衛星通信を使った広域のコミュニケーションシステムや、もっと身近なインターネットを利用した双方向コミュニケーションを医療・福祉の領域に応用したもので、IT技術の発達と共にその裾野が大きく広がっています。最近叫ばれている医療格差、特に山間部や島嶼部等での専門医の不足に対する解決策の一つとして、遠隔医療の果たす役割はますます大きくなってゆくと思われます。総合患者支援センターでもこの学会を契機に、その動向を見守りながら、地域医療連携という枠組みの中で、導入できるものがあれば取り入れてゆきたいと考えています。

当院では毎年、長年病院ボランティア活動をしてくださった方に対して感謝状を贈呈しています。今年度は感謝状贈呈式・交流会を昨年12月7日に開催しました。

今回感謝状を受けられた方からメッセージを頂きました。



[活動時間1000時間]

礪山 幹雄 様

明という字は皆さんご存知の通り、日と月の字で出来ています。いずれも私達の生活に欠かす事が出来ません。その起源についてはよく知りませんが、先人の知識に感心致します。ボランティア活動の中で「明るい笑顔」は欠かせなく、明るい笑顔が接する人々に「安心」をプレゼント出来るように思います。初診で来られる患者様に、明るい笑顔、明るい声でこの病院での診察はお初めてですか？とお声をかけますと、一瞬戸惑いそしてすぐ安堵され心を開かれます。何事も一生懸命な言動は「心に届く」「心を動かす」と言われ、大切な事だと思い常に心掛けています。「明るい笑顔」は自分が健康で、幸せな気持ちでいる事が必要不可欠で、その為には活動場所の明るい雰囲気、家族の理解と協力、活動仲間とのいい連携が重要だと思えます。この度、1000時間以上活動者として感謝状を頂きました。現在まで大病を患う事もなく、健康で何事にもプラス思考で積極的に取り組んできました。自分の元気の源は好奇心ではないかと考えます。病院ボランティア以外では、岡山市内のサッカースポーツ少年団の監督として、今年指導暦30年の節目を迎えます。また、岡山市観光ボランティアガイドとして、全国から来訪の方達との心の交流を大切に、そして、総合患者支援センターボランティアの一員として、益々頑張りたいと思えます。

[活動時間500時間及び200時間]

原田 一則 様

「初心忘るべからず」最近改めてその言葉を肝に銘じボランティアをさせて頂いています。人は慣れてきますと最初の情熱や緊張感など忘れマンネリになり悪い意味の押し入れになってしまいます。その傾向が顕著な私はボランティアを通じて謙虚な気持ちになれ、人に奉仕することを喜びとするというボランティアの「語源」に支えられ、あくまでも自発的な喜びで、無理な努力ではなくおらかな明るい気持ちで活動したいと念じ、日々のお手伝いを続けたいと思えます。

[活動時間200時間]

亀山 尚子 様

毎日主人と2人きりで人と会う機会が少なかったので、2年前から週1日図書ボランティアに参加しています。大学病院に行く日は少し張り切って自転車を走らせるのも軽やかです。図書室の仕事はたくさんの人達と接することが出来て楽しく、患者さんから「ありがとう」「ご苦労様」と言ってもらえると嬉しくて顔が和やかになります。ボランティアとして新しい喜びを与えてもらいました。

石井 美代子 様

この度は思いもよらず感謝状を頂き今更ながら過ぎた年月と時間に驚かざるを得ませんでした。ささやかなお手伝いのつもりで始め、何となくいろいろな本が読めるのでは？と誠にお恥ずかしいきっかけですので、感謝状に対して申し訳ない気持ちで一杯です。でも1点だけ納得出来ますのは、1日として億劫ではなくむしろ楽しく参加させて頂いたことです。決して自慢できる働きではありませんが、少しでも患者さんや皆さんのお助けになればこんな嬉しいことはありません。今後も体調に留意して1日でも長く参加させて頂きたいと日々考えております。

村口 篤子 様

04年10月のこと、友人が新聞記事を持ってきて「見てごらん子供への読み聞かせですって!」「えっ! 読み聞かせ? それなら私大丈夫よ」初めて岡山の地で始まった年金生活。「何かしないと体がなまっちゃう」と友人に話していたものですから…。早速プレイルームへ3回程伺い、お子さんの遊びのお相手をしました。ポカポカカーペットが大変気持ちよく、うっかりコックリコックリが始まってしまいます。悩んだ末石橋さん(支援センター)に申し出て、図書室の金曜午後の担当に決まったのでした。その時からメンバーに代わりがなく、大変居心地よく過ごさせて頂いています。大学関係故でしょうか寄贈される蔵書は良書が多く、本好きの私はすっかり虜になってしまいました。200時間! 岡山大学病院の建物に出入りを許されたのですネ。200時間も! 新しいお仲間と共に生き生きと過ごさせて頂けたのですネ。大変貴重な時間を与えて下さってお礼を申し上げます。これから益々年を重ねますが、今後とも宜しくお願い致します。

杉原 なお子 様

この度は感謝状ありがとうございます。患者図書室は多くの方の善意で寄せられた本と、スタッフの笑顔が溢れる温かい場所です。これからも、この場所をもっと多くの方に利用して頂けるよう、患者さんの声に耳を傾けながら、チームワークを大切に活動していきたいと思えます。

大麻 卓子 様

ボランティアを始めてもうすぐ2年になります。患者さんや家族の方から「大変ですね」と声を掛けて頂きますが、私としては言葉遣いや様々な人との接し方を教えられ、運動不足も解消でき、公立図書館では順番待ちの本でもこちらの図書室で借りられて、一石二鳥、三鳥の思いです。今回感謝状を頂いたことを励みにこれからも活動していきたいと思えます。ありがとうございました。

土井 雅子 様

感謝状を頂きありがとうございました。患者図書室にお世話になって2年が過ぎました。時間だけは経過しましたが、周りの皆様に助けて頂き今までやってこられたと感謝しております。この度を励みに、これからも利用者の方から「ありがとう」と言って頂けるよう、心を込めて活動していきたいと思っています。

清水 千聖 様

感謝状を頂きありがとうございます。私は図書のボランティアの月曜日メンバーとして頑張っています。図書のボランティアとして1年半以上しているのですが、いろんな出会いがあり良い経験ができました。

友重 安子 様

「この図書館があって良かったヨ。病院での一日は長いからネー。」このような患者さんの言葉に心の中でVサイン! ボランティア活動することで私自身が生活の張りを頂いています。活動できる場を与えて頂き私の方こそ大学病院に「感謝」です。

沖 彩子 様

私がボランティアを始めたのは大学入学後すぐでした。学生ボランティアグループ「ぽぽ」の一員として、小児病棟でお子さんと遊んだり、整形外科で配膳、精神科の庭で患者様と花を植えたりと様々な活動に参加させて頂きました。その中で、ボランティアの方々、患者様、病院スタッフの方々との多くの出会いがあり多くのことを学ぶことができました。また、看護学生としても多くの学びを得ることができ、ボランティアを通して貴重な経験をすることができました。

情報コーナーのご案内

西病棟から南病棟にかけて情報コーナーを設置し、患者様向けの医療情報の掲示、関連用具の展示を定期的に行っています。今期間は、総合リハビリテーション部による『リハビリテーション』の紹介をしています。

総合リハビリテーション部 紹介



当院では各診療科の外来および入院患者様の早期退院や社会復帰を目指し、専門の医師の処方の下、理学療法・作業療法・言語療法をそれぞれの専門性を活かし、多方面からのアプローチを行っています。理学療法部門では、運動療法・物理療法にて、作業療法部門では作業を用いて障害の治療と訓練を行います。言語療法部門では、主に失語症や麻痺性構音障害、嚔声等音声障害や嚥下障害、小児期の言語の発達の遅れや学習障害の訓練を行っております。



リハビリテーション専門医2名、理学療法士6名、作業療法士3名、言語療法士1名が所属しております。

スタッフはより良い治療とリハビリテーションを提供しようと、日々努力しております。



歯科衛生士 紹介

日本歯科審美学会認定
ホワイトニングコーディネーター 高橋 明子

こんにちは、歯科衛生士の高橋です。
口元の審美性を重視する傾向が強くなった今日、テレビや雑誌等で“ホワイトニング”という言葉を目にする機会が増えてきました。皆様も一度は耳にされたことがあるのではないのでしょうか？



ホワイトニング治療は、一般的に広く知られている歯牙漂白の他、ラミネートベニヤ等の材料を歯の表面に貼り付けするカバーリング等、様々な治療方法があります。そこで、ホワイトニングコーディネーターは歯科医師と共にカウンセリングを行い、各患者様に適した治療方法のご提案、治療期間中の生活指導等をしております。コンプレックス等、心理的な背景にも充分配慮する必要があるケースもあり、的確な対応・判断力が必要となってきます。まだまだ未熟な私ですが、“美しさ”の手助けをすることで“心の健康”を援助する事が出来るよう自己研鑽に努めていきたいと考えております。

市民公開講座のお知らせ

岡山県がん診療連携拠点病院とがん相談支援センターの役割を知って頂くため、市民公開講座を開催いたします。講師をして頂く小倉恒子氏は、乳がんと闘いながら現在も医師としてお仕事を続けておられ、これまでの体験や、医師としてまた患者としての立場からご講演して頂く予定です。

患者様やご家族、また医療に携わっておられるみなさまの、多数のご参加をお待ちしています。

- 日時 3月16日(日) 14:00~16:00
 会場 岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)1階
 イベントホール(東側) *JR岡山駅中央口より徒歩3分
 講演 1. 岡山県のがん対策の取り組み
 2. 「女医が乳がんになったとき
 ~がん患者・医療従事者へのメッセージ~」



講師 おくら つねこ
 小倉 恒子 氏 (耳鼻咽喉科 医師)



問合せ先：岡山県がん診療連携協議会
 事務局 岡山大学病院 医事課医療総務係
 TEL086(235)7585

がん相談支援センターとは・・・

全国のがん診療連携拠点病院内に設置されており、患者様やご家族、あるいは地域の方々からの、がんに関する相談をお受けする相談窓口です。岡山県内のがん診療連携拠点病院と相談支援センターは次の医療機関です。相談方法に関して医療機関ごとに異なりますので、お電話でご確認ください

- ・岡山大学病院 総合患者支援センター TEL:086(223)7151
- ・岡山済生会総合病院 相談支援センター TEL:086(252)2211
- ・岡山赤十字病院 がん相談支援センター TEL:086(222)8811
- ・倉敷中央病院 総合相談・地域医療センターがん相談支援室 TEL:086(422)0210
- ・津山中央病院 がん診療相談支援センター TEL:0868(21)8111

お知らせ

4月に新病棟が開設されます。それに伴い現在の西病棟の各病棟が新病棟へ移転しますが、総合患者支援センターは6月までは現在の位置(西病棟1階)のまま変わりません。7月に外来棟へ移転する予定ですので、移転に関する詳しい情報は次号のセンターニュースでお伝えします。



4月に開設する新病棟